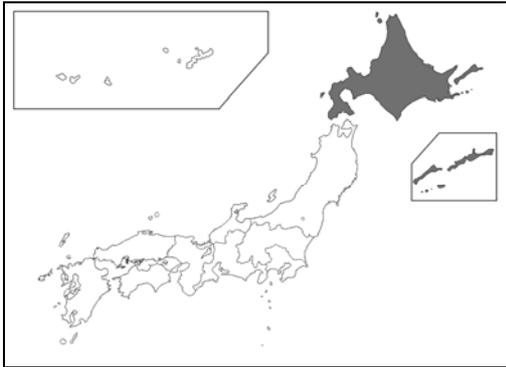


### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

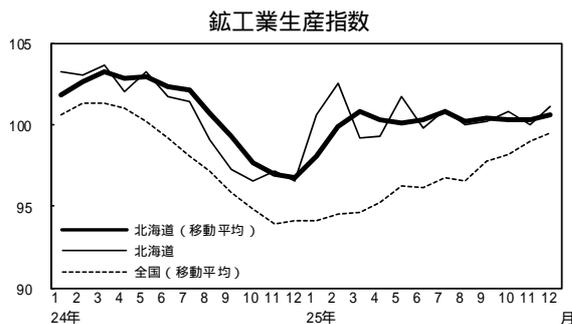
#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年11月)	今回(平成26年2月)	
観光	緩やかに増加	増加	
住宅建設	大幅に増加	減少	

#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を下回り、水産物の水揚量は前年を上回っている。  
10~12月期には、生乳生産は、乳製品向け等が減少したため、総量では938,521tと前年比3.2%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、するめいか等が増加したため、前年比4.1%増となった。

(2) 鉱工業生産は、持ち直している。  
10~12月期には、食料品は、ビールの在庫積み増しを行った影響等から増加した。パルプ・紙は、食品容器や建材用原紙である雑種紙の生産が伸びたこと等から増加した。電気機械は、スマートフォンや携帯電話向けの無線通信装置や水晶振動子、自動車向けの集積回路や電磁リレーの生産が好調なこと等から増加した。鉄鋼は、好調な公共工事や民間建設工事を受け普通鋼棒鋼の生産が伸びたこと等から増加した。輸送機械は、鋼船の減少や自動駆動伝導装置が伸び悩んだこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
食料品	24.2	0.1	0.4	5.5	2.4	3.5
パルプ・紙	11.9	2.3	2.9	5.5	4.2	6.6
電気機械	11.7	0.6	19.6	1.3	4.1	5.1
鉄鋼	7.5	2.4	7.1	0.3	12.2	4.7
輸送機械	7.0	5.3	12.4	2.9	15.1	3.4
鉱工業	100.0	0.1	0.2	0.6	0.8	1.1

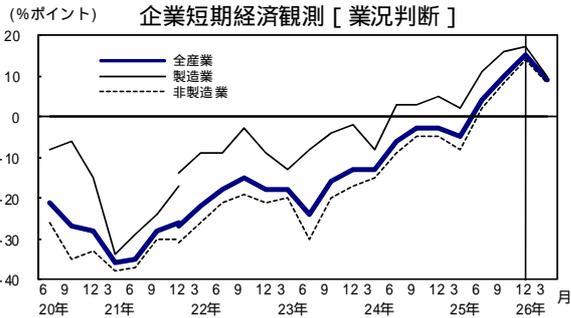
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10~12月期、12月は速報値。

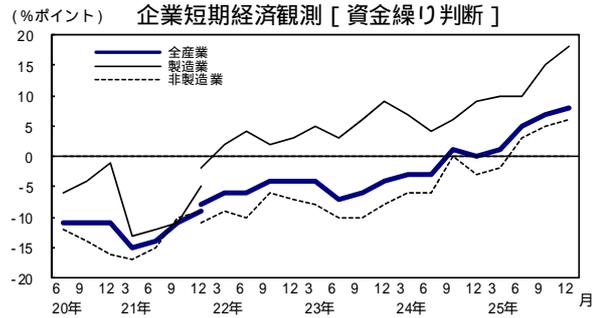
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

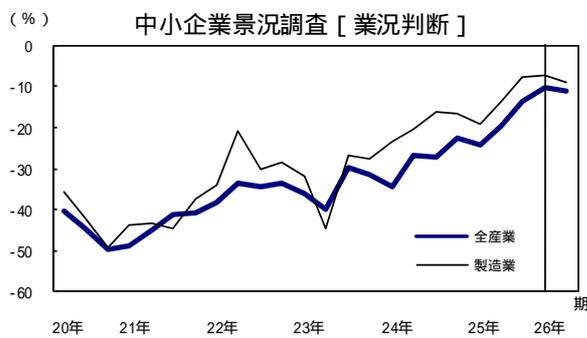
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年3月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

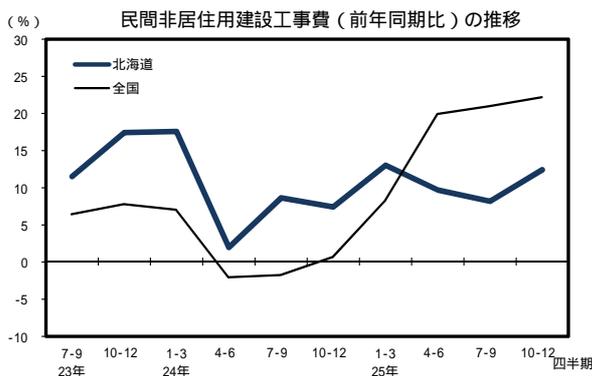


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「一定の消費税増税前の駆け込み受注がみられるが、増税前の納期に間に合わない商談が散見されており、前回の増税時のような盛り上がりが見られない(その他サービス業[建設機械リース])」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

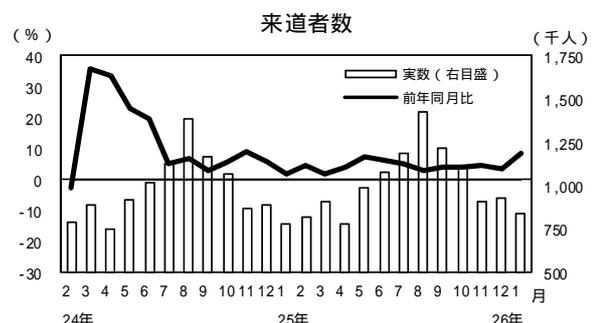
(前年度比、%)

	24年度実績	25年度概
全産業	20.1	10.6(3.7)
製造業	62.4	6.5(4.9)
非製造業	3.5	14.5(2.7)

(備考) 1.( )は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。  
2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、増加している。

来道者数は、航空機材の大型化やLCC就航の影響の他、関東地方のテーマパークのイベントや富士山の世界遺産への登録等がけん引役となり増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、緩やかに持ち直している。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比0.5%減、11月は同0.3%減、12月は同0.5%増となった。

大型小売店販売額

百貨店は、10月は、9月に秋冬物衣料の需要が前倒しになった影響等から前年を下回った。

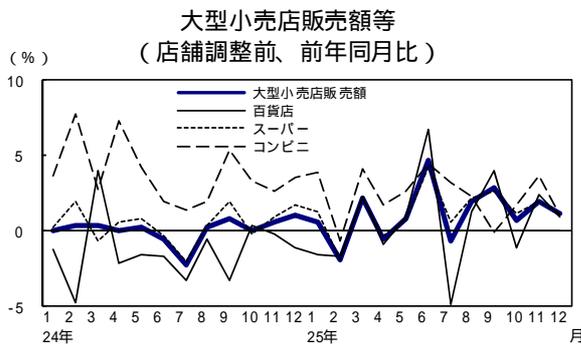
11月は、高額品の売上が好調で身の回り品やその他の商品が増加したことや、飲食料品の売上が伸びたこと等から前年を上回った。12月は、引き続き高額品の売上が好調で身の回り品が増加したこと等から前年を上回った。

スーパーは、野菜の相場高の影響により飲食料品の売上が伸びたこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（1月）[家計動向関連（現状）]

北海道地域の家計動向関連DIは、51.9となり前月より1.6ポイント低下した。

「全体的にはあまり変わらないが、常連客の客単価が低下していたり、月曜から水曜にかけての来客数が減っていたりなど、細かくみると、買い控えの動きが始まっているようだ（高級レストラン）」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

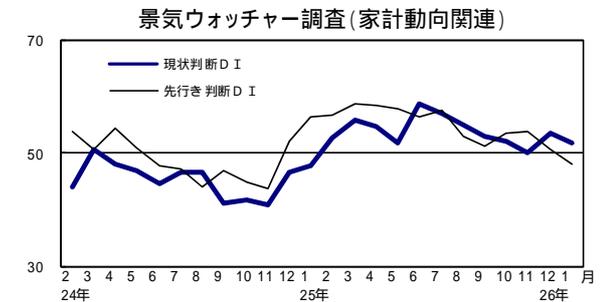
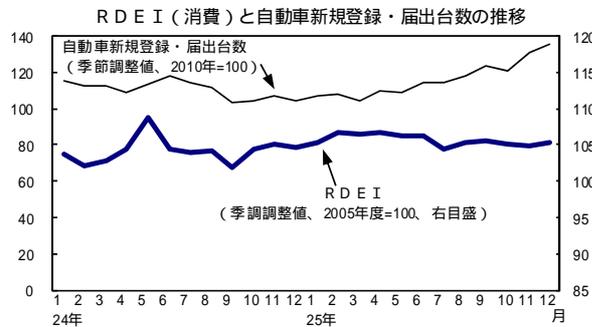


	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	0.0	0.5	0.3	0.6
大型小売店(*2)	1.3	0.7	2.0	1.1
百貨店(*2)	0.8	1.1	2.4	0.9
スーパー(*2)	1.4	1.2	1.9	1.2
コンビニ(*2)	2.1	1.7	3.6	1.0
乗用車(*3)	20.7	14.6	18.0	32.2
(季節調整値)(*3)	8.7	2.7	8.2	4.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

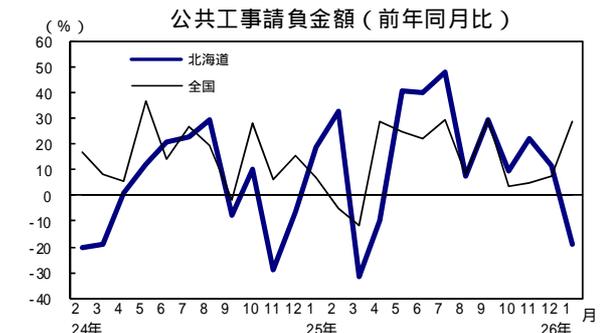
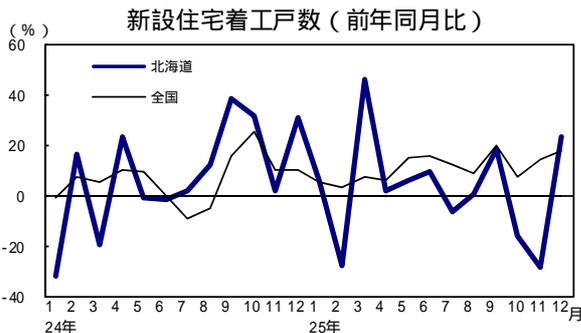
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%) )



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

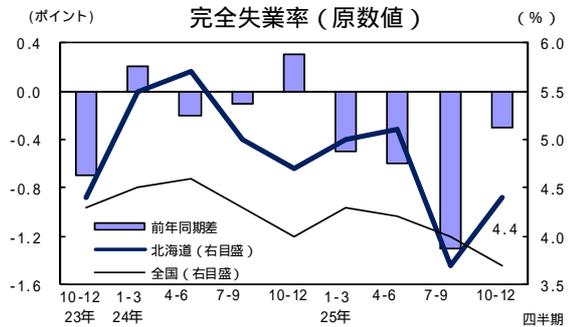
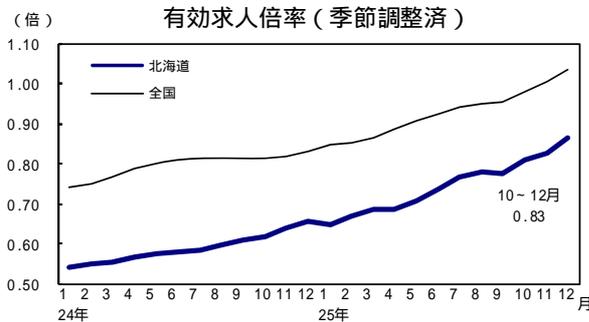


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

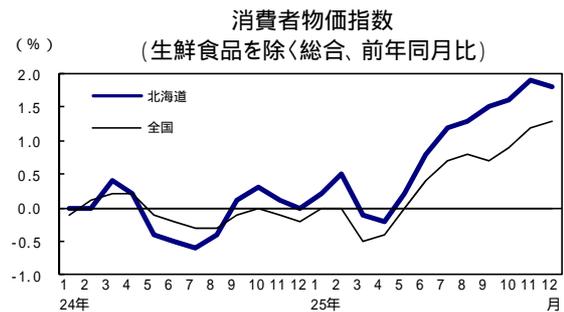
「正社員の求人意欲が高くなっている。人口減少と景気回復が相まって、売手市場に拍車がかかっている (求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
倒産件数	110	96	76	69	32
(前年比)	18.5	22.6	29.6	23.3	14.3
負債総額	343	5,284	126	139	31
(前年比)	41.4	1913.3	13.3	35.7	38.5



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・消費増税前の駆け込み需要が本格的に表れている。一般家庭用家具、コントラクト用家具ともに活況である (家具製造業)。

<先行き>

・3月末までは、消費増税前の駆け込み需要が月を追うごとに大きくなる。3年前の地上デジタル放送移行時以来の大きな需要になるものと期待している (家電量販店)。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

